

エールを送る！

IGLで働くひと Interview

一人ひとりの“思い”に応える、 ていねいな保育

たかはし ゆみ
保育教諭・正職員 **高橋 祐未さん**
2011年入職 サムエル西条こどもの園で勤務。



お仕事の内容を教えてください

2歳児担任、2歳児2部屋のリーダーとして正職員で働いています。

日頃から大切にしていることはありますか

子どもの姿から“やってみようとしていることは何なのか？そのためにどんな援助が適切なのか？”子どもの思いを汲みとり、一つひとつ丁寧に伝えていくことを大切にしています。共に働いている保育者の子どもを見る目は温かく、子どもの行為を肯定的にとらえて、ポジティブな発想にあふれています。そんな保育者一人ひとりの思いがつながり重なり合うことで、子どもたちに向けられる愛は大きく育まれていると感じています。

IGLで働いてどんなことを学びましたか

子どもたちが自ら考え行動できるように環境を整えていくことや、一人ひとりに合わせた言葉かけや見守りなどの援助の大切さを学びました。園では、自身の自主性も大切にされていると感じています。自ら希望して、園内外の研修に参加することができます。個人的には、本を読んだり、たくさんの人との出会いなどを通してアップデートしていくことを心掛けています。また、仲間と共に働くなかで影響しあい、常に成長続けていけたらと考えるようになりました。

普段接している職員の皆さんへメッセージをお願いします

子どもたちが成長していく姿を日々感じ、それを保護者の方と喜びを共有できることに幸せを感じています。そして、尊敬できる人に囲まれた職場で、自然と笑顔で過ごすことができている毎日に感謝の気持ちでいっぱいです。

後輩（同僚）からのエール！

子どもの表情や仕草から思いをくみ取り、しっかり受け止める先輩です。明るい声かけや対応が、へや全体の雰囲気をも明るくし、安心感をもたらします。悩みを相談した時には、気持ちに寄り添いながら聞いてくださるので心強いです。とても尊敬している先輩です。（同僚 川辺 波奈さん）



卒園生からのエール！

サムエルで始まった やさしさの循環

サムエル薬師が丘こどもの園
1995年卒園
くりす こうすけ
栗栖 晃輔さん
株式会社上万糧食製粉所



左は晃輔さん（本人）
右は兄の亮輔さん

サムエルでの日々を思い出すと、最初に先生たちの顔を思い出します。当時かなり母親子だった私は母親と離れがたく登園時に泣いてばかりでした。ただ、先生たちがやさしく接して下さったおかげで次第に登園が楽しみになり、泣きながらの登園が無くなったのは今でも鮮明に覚えています。

今では一緒にサムエルに通っていた兄が経営する会社できな粉などの営業をしており、薬師が丘こどもの園ではクッキング体験も実施させていただきました。

これからも子どもたちの身体づくりや健康の為に、より安全な食品をお届けしたいと思っています。



きな粉団子づくりをしたよ

乳幼児保育・教育事業 Topics 1月～4月



小さな友だちとの関わりで...

小さな子どもたちと出会うと自然に視線を合わせ、温かなまなざしを送る子どもたち。



どんな言葉で伝えたらいいか、どんな速さで歩いたらいいか、どうすれば履きやすいかなど、考えながら関わっています。

また、保育者から“前もって声をかけるといいよ”と教えてもらって、すぐに実践していました。



子どもたち同士の関わり合いのなかで、してもらうことを喜んだり、誰かの助けになる喜びを感じたりしながら共に育ち合い成長しています。



サムエル園長先生リレーコラム

心を育む



サムエル東広島こどもの園
新本 富子園長

子どもたちは日々あそびを通して「こうしてみよう」「あ～ダメだった」「これならどうだろう」と、まるで実験でもしているかのように、何度も何度も同じことを繰り返しては失敗しまた挑戦しつつ沢山のことを経験しています。誰かに言われるのではなく、自ら考え試行錯誤するからこそあそびは面白く、「できた!!」と誇らしそうな笑顔となり、このことがまた一つ自信へと繋がります。そこには大人の関わりもとても大切であり、「できたね」「どうやったの」「いいこと考えたね」などと共感することで笑顔もやる気も倍増します。このようにして、乳幼児期にどれだけあそんだかによって、心と頭と身体を豊かに育んでいくのではないのでしょうか。子どもの何気ない表情や姿に、日々励まされ力づけられています。



園児募集について

サムエル各園に入園をご希望される方は各園のホームページよりお問い合わせください。



こども園 総合TOP